

平成30年度
第2回堺市堺区区民評議会
会議録

行政資料番号 1-C8-18-0141

平成30年度 第2回堺市堺区区民評議会 議事録

開催日時	平成30年6月21日（木） 午後6時30分から午後8時
開催場所	堺市役所 本館3階 大会議室1
出席委員	川上副会長、奥野委員、貴志委員、北野委員、木下委員、 隈元委員、小池委員、松壽委員、矢本委員、湯川委員
事務局職員	堺区役所 西本区長・泉森副区長・福田センター長 (企画総務課) 大黒課長・藪課長補佐・岩野主査・川瀬主査
傍聴者	4名
議 題	1 開会 2 議事 （1）フィールドワークの実施報告 （2）「地域力を強化し、つながりが実感できるまちづくり」について （3）その他 3 閉会
資 料	次第、配席図 資料1 堺区区民評議会フィールドワーク実施報告 資料2 堺区区民評議会中間報告に基づくモデル事業について

議 事 の 経 過	
発言者	発言内容
川上副会長	<p>1. 第2回堺市堺区区民評議会 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) フィールドワークの実施報告</p> <p>審議に先立ちまして、前回4月に開催しました第1回評議会での意見についての振り返りを行いたいと思います。</p> <p>事務局から説明をお願いします。</p>
事務局 (川瀬主査)	<p>前回会議ですが、30年度第1回目会議ということで、審議を進めるにあたり基本的な方向性、スケジュールの確認と、区民評議会発意による調査などについての審議を中心に行いました。</p> <p>まず、審議の進め方・方向性について挙げた意見です。</p> <p>中間報告でも触れられていますが、ひとつの取組が好循環をつくりだし、多様な効果をもたらすきっかけとなるものを提案していくことが必要であるということがあらためて確認されました。</p> <p>また、民間の取組やアイデアをバックアップする条件整備や環境づくりを進めるために、試験的に取り組むような社会実験をしてはどうか、例えば自転車タクシーを、堺区内に点在している色々な資源を結びつけるきっかけとなるような交通手段の軸に考えてはどうかという意見が挙がりました。</p> <p>あと、中間報告で挙げております「地域力の強化」、「働きやすい環境の整備」、「郷土愛の醸成」の3つのテーマに関連して、郷土愛の醸成では、堺区、堺の地にまつわる物語などを掘り起こして発信することで興味を持ってもらうことが必要ではないのかという意見がありました。</p> <p>方向性としては、新たな取組を行うだけではなく、既存の取組を充実させるために、支援のあり方、評議会としてできることを考えることが必要であるということと、何よりも区民目線でわかりやすい発信のもと答申にまとめていくということで意見が挙がりました。</p> <p>次に、区民評議会発意の調査についてですが、審議に値する調査ということで、視察などを行う際に堺区でどう生かせるのか、目的意識を持って実施をすることが重要である。他都市において参考となる社</p>

	<p>会実験が数々ありますので、今回の方向性の参考となるものを視察に行ってはどうかということ、ワークショップなどを実施するに当たっては、キーワードの提示やテーマの掘り下げなどで進めていけばどうかという案がありました。</p> <p>1回目の振り返りとしては、以上です。</p>
川上副会長	<p>前回の振り返りを説明いただきました。皆さん、何かございませんか。</p> <p>では、案件1のフィールドワークの実施報告について、事務局より報告をお願いします。</p>
事務局 (川瀬主査)	<p>事務局より、5月28日実施のフィールドワークの報告。</p>
川上副会長	<p>今、3つのテーマに基づいたスピニングミル、タマノイ酢、妙法寺へのフィールドワークを報告いただきました。それぞれの訪問先の報告につきましては、各テーマの審議の際に詳細な報告をお願いする予定です。</p>
川上副会長	<p>(2)「地域力を強化し、つながりが実感できるまちづくり」について</p> <p>引き続きまして、案件2、「地域力を強化し、つながりが実感できるまちづくり」についての審議に入りたいと思います。</p> <p>今回は第2回目ですが、9月開催の第4回まで3回にわたりまして、基本的な方向性の「地域力の強化」、「働きやすい環境の整備」、「郷土愛の醸成」、それぞれのテーマ別に審議を進めてまいります。</p> <p>審議に先立ちまして、まずは事務局から、本日のテーマに関連したモデル事業についての報告をお願いします。</p>
事務局 (川瀬主査)	<p>事務局より、資料2の説明。</p>
川上副会長	<p>引き続きまして、私も参加しましたが、「地域力の強化」のテーマで訪問しましたスピニングミルについて、現地での視察内容や、意見・感想をフィールドワークの参加者を代表しまして小池委員から報告を</p>

<p>小池委員</p>	<p>お願いします。</p> <p>また、小池委員は専門分野として居住空間デザイン、長屋のリノベーションを手がけておられます。リノベーションからの場のつながり、あるいは地域力の強化という観点からお話を頂いた後、小池委員の進行のもとで、委員の皆様からご意見をいただければと存じます。</p> <p>では、お願いします。</p> <p>それでは、フィールドワークの報告と、それ以外に、私が日ごろ取り組んでいる、スピニングミルと似たようなことを少しご紹介できればと思います。</p> <p>まず、フィールドワークの報告、スピニングミルについてです。一緒にフィールドワークにご参加された方ばかりだと思いますが、紀州街道に面した建物を小野さんが取得されたのが始まりで、建物自体がそのまちにずっとあり、れんが造りのすごく雰囲気のあるものを使っておられます。</p> <p>視察に行ったときは、2階の広い部屋で話を聞きました。色々な活動をされているということで、コンサート、ヨガや料理の教室、あとはマーケットをしたり、劇団が使われたりということで、古い建物を取得して、空いているスペースを生かしながら、その場所で色々な人が来るものを実施されていました。</p> <p>そこで小野さんがお話されていたのは、自分はそれほど堺にゆかりがなかったけれども、この建物の取得がきっかけで、まちの人が建物が残ることを喜んでくれたり、それを使いたいという人があらわれたり、爆発的に人のつながりが増えたというお話をされていました。</p> <p>小野さんご自身は写真家ですが、その傍らで建物を生かしながら、まちを良くするという思いも持っておられるところが特徴かと思っています。</p> <p>貸しスペースとして使ってもらいながら、ご自身でイベントも企画されていて、スピニングマーケットという市場を定期的で開催されています。初回は30人ぐらいしか、人が来ませんでした。今はすごく人気のマーケットになっているとお話されていて、継続するということの力なども感じました。</p> <p>あとは、今、その建物をずっと運営されていて、特に大きなトラブルもない理由としては、この古い建物を使っていることがひとつのフィルターになっているのではないかということもおっしゃっていました。多分これが新しい建物ではなくて、まちにずっとある空き家を使</p>
-------------	--

っていることが、まちと活動がかかわる大きなきっかけになっているのではないかと、お話を聞いて思いました。

すごく色々な方面に熱意をお持ちで、スピニングミルの建物が紀州街道沿いにあることを生かして、岸和田などの他の紀州街道に面している地域とつながるようなイベントもできるのではないかとということでした。他にも、千人の利休という、みんなで千利休になったらどうだろうという企画など、建物に留まらない、すごくまちとかかわる構想をお持ちでした。

当日あまりお話しはなかったですが、スピニングマーケットに来られているお店は、堺の内外のお店があり、七道の、スピニングミルから少し西に行った辺りにある古い長屋で店舗をされている方も定期的に出店されていて、そういう古い建物を使っている人たちのネットワークも、活動の基盤のひとつになっているのではないかと思います。

これがスピニングミルを見学した報告になりますが、ほかに何かあれば、後で補足をいただければと思います。

少しお時間を頂きましたので、私のほうで、自分の専門分野のことも含めた紹介をさせていただければと思います。

私自身は建築のデザインが専門で、古い建築ストックという空き家をリノベーションして、もう一度使えるようにすることを仕事にしています。

本日は、大きく2つ、泉北ニュータウンと、大阪市内の古い戦前の長屋でしていることを、簡単にご紹介して、その後、スピニングミルでされていることを含めた活動が、どんなことにつながるのかということをお話しできればと思います。

ずっとかかわらせて頂いている泉北ニュータウンについて、これは大阪市立大学と堺市の協定の中で、色々な取組をしていますが、ひとつは「リノベ暮らし学校」という活動をしています。6月30日にはオープンハウス・バスツアー、このバスツアーが人気ですぐ定員となってしまいますので現地では「泉北リノベ祭り」として、バスツアーに参加できない人はリノベ祭りにだけ来てもらえる取組をしています。

これは、リノベーションをして中古住宅に住むということをおぼろげに学ぼうという学校になります。主催は、泉北ニュータウン住宅リノベーション協議会で、私もこの協議会に参加していますが、ここでめざしていることは、単純には空き家になっている中古住宅を使う人がふえればいいということですが、それだけではなくて、ニュータウンというの

は、もともとは郊外で都心に働きに行く人たちのベッドタウンとしてできましたが、今はすごく空き家が増加して、高齢化も進んでいる中で、この緑豊かな自然のある地域をもっと楽しめないかということで、寝に帰る場所だったニュータウンを働く場所、もしくは趣味、地域での活動、職住一体居住など、もう少し生産する活動に使う場所にしたいというのがあります。本当は、その地域は第一種住居専用地域という住宅のための地域ですが、その一部分でお店をすることは法律的にも認められているので、ちょっと子育てをしながらお料理教室をするなど、もっともっと外に開いていき、その住宅地を楽しくできればいいなという未来像を描きながらやっています。

協議会の中では空き家をリノベーションするプランを学生と一緒に提案して、地域の方に意見を頂いたりとか、リノベーションするモデルプランをつくり、このぐらいの費用でこのぐらいの改修ができますということをやったり、あとは、「リノベ暮らし学校」を定期的開催して、新築を買うか、リノベーションで中古住宅を買うか迷っている方に、リノベーションのメリット・デメリットをお伝えする活動をしています。

即効性があり、すぐに中古住宅がどんどん流通するとか、そんなことはなっていませんが、ニュータウンの魅力の発見の手がかりを提供できればいいなという活動をしています。

これは、かなりハード寄りの活動で、他には、泉北ニュータウンではソフト的な活動をされている方もたくさんいらして、公園を使ってみんなでピクニックをするとか、泉北ニュータウンのまちにレモンの木を植える活動をしている方もおり、そういうソフトの動きと、その横であまり動きは速くないのですが、新築を建てるのではなく、いまある空き家をうまく使うというハード面の動きのサポートを何かできればいいなと思い取り組んでいる内容です。

もうひとつ、大阪でしている取組ですが、そのひとつが豊崎長屋と呼んでいる長屋群になります。こういう場所を拠点にしながら、大阪の長屋をリノベーションしていく活動もしております。

こちらは戦前の長屋で、本当に梅田から歩いて15分のところにある長屋で、私たちは今から15年ほど前に、かかわり始めました。梅田の近くで利便性も高く、これを一群売ってしまい、ビルに建てかえて、最上階に所有者の方が住むというプランも当時ありました。ただ、所有者の中で、古い建物に思いがあって、これを残したいという話で、少しずつリノベーションをして、空き家に新しい居住者を迎えるとい

う小さな取組を、いまだに継続させています。

各地に残る長屋住宅の特徴を分析しつつ、その場所にあった改修を目指して、空き家が出るたびに長屋をリノベーションして、入居者を迎えるということを繰り返しています。

ここでは、すごく明確なマスタープランはないのですが、大阪のまちにずっと残っているこういう住文化を引き継ぐことができるのではないかと考えています。

結構、こういう古いものを直すと、まちに興味があったり、何か自分も活動をしたいという方が入居されることが多くて、賃貸住宅として直しているうちにイベントが発生したり、単に住むだけではなくて、まちの雰囲気も会話が活発になったり、小さな変化が起きています。

大和川を挟んで、スピニングミルとちょうど反対側あたりにある住之江の町家についても、所有者の方が空き家になり、潰して駐車場にしようかと思っていたところを、何かできるかもしれないということがかかわっているものです。

何かといっても、すぐには何ができるかわからないので、「おふくいち」というマーケットをしていて、みんなで空き家を色々使ってみようということをしています。

そういう活動を色々していますが、こういう古い建物はなかなか、直しても住む人がいないのではないと言われてたりしますけれども、結構、マンション暮らしではなく、あえて長屋に住みたいという若い人がいます。

小さな工事でリノベーションをしているだけでは、あまり数が増えないので、もう少し古い建物を生かす人をつなぎたいと始めた活動が、「オープンナガヤ大阪」というイベントです。自分たちがリノベーションした長屋だけではなくて、実際に古い建物を使って、まちとかかわりながら暮らしている人たちと一緒に住まい方を開いてもらい、色々な人をどうぞと迎えてもらおうというイベントで、毎年、秋に2日間、大阪市内の大体40カ所ぐらいの長屋を公開しています。

去年で、延べですけれども3,000人以上の方が、小さな長屋に押しかけてくださり、長屋の魅力とか、思いかけず住めるかもしれないという感想を頂いたり、古い建物を単に観賞するだけではなく、暮らす場所として捉えてもらっております。

一度、七道の方にも会場として参加頂いたことがあります。まだ大阪市内で動く人が多くて、継続には至っていませんが、毎年開いてもいいという人たちと一緒に公開のイベントなどもしております。

そういう空き家を使うことは、いろいろ難しいこともありますが、やはり、まちにずっと建っている建物なので、まちの文化を引き継いでいける力は、すごくあるのではないかと考えています。

本日、お話しさせて頂くに当たり、空き家をリノベーションするという小さなことが、まちの地域力を高めるのにどんな役に立つのかというのを、少し整理しようと思って考えてきました。今、まちは人口が減っている中で空き家が増えています。それを「都市をたたむ」という本を書かれた首都大学の先生は、スポンジ化するとおっしゃっていて、都市に空き家、すなわち空洞ができていくという中で、空き家を使うということは、その空洞を使っていくことだと思いますけれども、そういう点在する空洞だけでは多分機能しなくて、その空洞をつないでネットワーク化していく。

そのつながりをどうつくるかとか、どれがつながりなのかということは難しいのですけれども、個々の、スピニングミルの小野さんとか、まちとかかわりながら空いているものを使って活動をしている方がスポンジ化するまちにいて、それを何とかつないでいくということと、両方あると、人口が減っていくまちの中で、うまくあいたスペースをみんなで使うというふうにつながっていくのではないかとすることを、ちょっと改めて感じたりしました。

それは、インターネット上のつながりなのか、自転車で回れるようなルートができることなのか、どんなつながりがいいのかということはいろいろあると思うのですけれども、ちょっとまちにできた空きスペースをみんなで使っていくということとセットで、空き家のリノベーションがあると思っています。

最後に去年、間宮委員などのご協力をいただいて、学生が堺区の紀州街道沿いと大阪市の住吉大社までの紀州街道沿いをフィールドワークして、その後に書いたドローイングで、学生の主観も入っていますけれども、古い建物を使ってカフェや、ゲストハウスをしたり、人が集まっている場所が紀州街道沿いにあって、それをもう少し増やしていくと人の動きがずっとでき、自転車で巡ったらつながるのではないかと考えました。

そんな夢を整理したのですが、こういうものをするときに、新しい建物だけではなくて、まちにずっとある建物を使うことで、外から来た人にとっても、あるいは、ずっとまちに住んでいる人たちにとっても愛着がわく、そのまちらしさというものが生まれるのではないかと考えています。

	<p>今回、地震が起こったりして、古い建物を直すには費用も必要ですし、耐震補強をどのようにするかとか、いろいろな専門知識が必要なのですが、まちに住んでおられる皆さん方が、住みながらまちに対して少し自分の何かを開く、植木鉢をひとつ植える、そんな小さなことから何かまちとかかわりたいと思いながら住むということが起こると、まちがよくなるのではないかと思ひ活動しています。</p> <p>以上がフィールドワークの報告と、日ごろ私のほうで取り組ませていただいている空き家のリノベーションの紹介をさせていただきました。</p> <p>中間報告においては、「地域力の強化」について働きがいを得られる場とか、人とつながりが感じられる場の創出、企業等がまちづくりに参加・参画する機会の創出、女性や高齢者の活躍できる機会の創出、地域活動の充実に向けた支援の強化、地域活動を促す情報発信の仕組みの構築などのキーワードが挙がっていました。</p> <p>本日、私のほうで説明をさせていただいた内容を含め、実際にフィールドワークで見たことなども含めて、ご意見を頂きたいと思ひます。</p> <p>本日の議長ではなく、意見として言いますが、「地域力の強化」のひとつとして、空き家を減らすという切り口があったと思ひますけれども、私自身はスピニングミルに行ったときに、代表者の方のすごく熱い思いを感じました。</p> <p>ただ、どういうグループにしても、軸となる方に力があって、熱い思いがあり過ぎると結構、仲間が増えている気にはなるのですが、なかなか先ほど言った千人の利休のようには増えてこないということが実情です。その先ですよ。堺区として、評議会として、どうしたらいいのだろうか、それぞれの現場で考えていました。思いがものすごく伝わり、それは訪問先、全てで感じましたが、ここから先をどうしていったらいいのだろうかということを、あのとき感じたのです。</p> <p>本日は、皆さんのご意見をお聞きするのですが、「地域力の強化」が、イコール空き家を減らすことなのか。あるいは、さらにどうしたらいいのかということ、小池委員のほうから皆さんに聞いていただいたらいいかと思ひます。</p>
川上副会長	<p>本日の議長ではなく、意見として言いますが、「地域力の強化」のひとつとして、空き家を減らすという切り口があったと思ひますけれども、私自身はスピニングミルに行ったときに、代表者の方のすごく熱い思いを感じました。</p>
小池委員	<p>皆様、いかがでしょうか。</p>
隈元委員	<p>私も、空き家をリノベーションすることは素晴らしいことだと思ひ</p>

	<p>ますし、今まで誰も住んでいないところをリノベーションして、そこで人がこうやって動いていくことについては、いいとは思いますが。</p> <p>ただ、それは住んでいるところが動くだけで、今言った地域力となってくると、例えば、その空き家がひとつだったら何かできるけれども、5つになったときに何かテーマがあって、それぞれ、そこに人が寄ってくるという吸引力のあるものにしようと思うと、単発でリノベーションして、それぞれの空き家がよくなっても同じ、極論を言えば、パン屋をやる人が3つできても全然意味がなくて、もっと人が来るような、エリア全体のマーケティングというのか。</p> <p>私は大道筋から紀州街道が大好きですが、その中に空き家があって、そこをやっていくのなら、全体でどういうふうにランドデザインとして考えるのか。その中でひとつひとつを変えるときに、本当に気持ちのある人がつくっていきますが、つくっていくものが、エリア全体にあるマーケティングの中でどういうものが多く集まってくるのか。いろいろな方々が寄ってくると、その部分を、もうひとつ地域力ということで考えておかないと、あまり細かいところに入っていくと、どうなのかなと少し感じたのです。</p> <p>やることはすばらしいことなので、どういうふうに全体と調和をさせていくのかというところが、少し考えるところかと。そこが全部できると、地域力というところになるし、私は、基本的に人が集まらなると活性化はできないとっていて、どうやって人を集めていくかが、メインだと私は思います。</p> <p>そのうちのひとつのテーマとしてはいいので、それを全体のマネジメントの中で考えていけると、すばらしいものができるかなと感じました。</p> <p>泉北ニュータウンでは、住みながら働くということテーマにしていて、昼間は人口が減ってしまうニュータウンで、子育てをしながら女性が活躍できたり、あるいは、地域で新しい仕事ができたりするということをしています。オープンナガヤ大阪では、大阪の長屋ということで、つながりながら住むということテーマをしています。</p> <p>例えば、堺区ですと、今までは自転車であるとか、あとはタマノイ酢でのお話でもお酢の発祥は堺であったり、やはりここで色々なことが始まっている、そういうことが幾つか出ていたかと思います。</p>
小池委員	
隈元委員	阿倍野区の田辺に長屋のお店がずっとあるところに行きましたけれ

<p>小池委員</p>	<p>ども、あちらに中華料理屋があり、こちらにイタリアンがあり、それはそれで、その流れに対して人が集まってくるというものもあります。</p> <p>でも、それは点ですが、今、先生がお話しているのは、それが幾つか、いっぱいできていて、自転車で行きながらテーマ性を持って歩けるといいなという感じなのかと思いました。</p>
<p>木下委員</p>	<p>他にも、ご意見があると思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>堺区の場合は点在すると、細い道を残すことになってしまい、救急車などがはいるかというのが、少し気になったりします。ここは、長屋のリノベーション通りみたいに一区画になって、そこへ行ったら色々なものが同時に見られるのはいいですが、点在すると、それを回る楽しみもありますけれど、まちの全体的な活性化や、安全性についてお聞きしたいと思います。</p>
<p>小池委員</p>	<p>そういうものは危ないから壊してしまおうとかはやっぱり難しいと思いますし、今、それだけの経済的なものを投資することもなかなか難しいですし、権利関係もすごく複雑だったりするので、そういうところは手つかずになったりすると思うので、逆に、みんなで知恵を出し合って防災訓練をすとか、もしくは、どうやったら安全になるかということ話し合いながら、少し時間をかけて、空いたスペースを近くの人とか、使いたい人で考えていくことが大事かなと思います。</p> <p>本当は面的に、エリアで盛り上がると、観光客にはいいと思いますけれども、なかなかまちはそのようにできていないので、点在してしまうものをどうやってつなぐかというところに知恵を出し合うことも、重要なと思います。</p> <p>爆発的に人口が増えたりすると状況は変わるのかもしれませんが、なかなか難しいと思うので、あるものをうまく使いながら、そういう場所を安全にどうつないでいくかということ皆さんと一緒に考えていけたらいいなと思っています。</p> <p>他には、いかがでしょうか。</p> <p>川上副会長</p> <p>さっき、エリア全体という話が出ましたね。エリア全体をテーマパーク化するとしたら、堺区全体と言ってもだめなので、まずどこからスタートしないといけない。そうすると、大道筋というものも非常に大きいテーマかもしれないけれども、山之口筋だけでテーマパーク</p>

	<p>化するとか。あるいは、できあがっている寺町がありますよね。そのある区域をテーマパーク化する。例えば彦根、ある一地域だけでテーマパークができています。あのような地域を今からつくって、どうなのかということですね。</p> <p>山之口筋なら北野さんに聞けばいいし、寺町なら松壽さんに聞けばいいでしょう。</p>
小池委員	<p>いかがでしょうか。お願いします。</p>
松壽委員	<p>私のところは寺町で、昔からあるようなお寺なのですけれども、周りにもやっぱり町家とかが多くて、堺市としては北のエリアですか。あちらは重点区域みたいな形で、何かを残していこうという感じなのですか。</p>
事務局 (企画総務課長)	<p>直接大きなお金を投資できるわけではないので、ファサードの改修をされるときに一部補助をするという形で、景観室が補助制度を立ち上げて、エリアで協議会をつくっていただいています。年に4件とかでしたけれども、今年度はまだ予算をかなり増額はしていると思います。</p> <p>堺区の区民評議会でも、この評議会自体を伝産会館でやったときがありました。そのときに一度説明をさせていただき、1期目からの委員の方はそのときにお聞きになっていると思います。</p> <p>以上です。</p>
松壽委員	<p>北のあの辺りのエリアの長屋をリノベーションしたときは、やはり需要があったのですか。私は、色々なところで話を聞いていると、昔からの家が建っている隣やその隣、結構空き家になっている地域の話の聞くと、不動産屋が来て、売って下さいみたいなチラシが入って、それを早く売るとそこにマンションが建つという計画で、ちょっとプレッシャーを受けるという話を聞いたことがあります。</p> <p>空き家があつて、その空き家に入居するような需要は、結構あつたりするものなのですか。</p>
小池委員	<p>立ち退きなどでマンションに変わって、長屋が減っていつている勢いというのはなかなか止められないのですが、古い建物を残したい大家さんがある程度手をかけて、次の賃貸住宅の住民を迎えようとする</p>

	<p>と、長屋に住みたい方は結構いらっしゃったり。あとは、店舗をしながら住みたいと思っている方や、マンション暮らしがちょっと嫌だと思っているような、クリエイティブな人たちが割と集まってきやすいということはありません。</p> <p>地域で色々活動をされている方が、マンションに住んでいるとあまり人を招いたりできないけれども、長屋だと人を招いたりもできるので、そういうところを探している方がおられたりするのです、すごくポピュラーな人気があるわけではないですけれども、一定数、こういう古いものが好きな方はいらっしゃいます。あと、大阪市北区の豊崎長屋ですと利便性もあるので、ロコミで空き家ができた次の方が入ってくるという状況です。</p> <p>だから、堺でも古い建物を直していったら、そういうところに住みたかった人が少しずつ出てきたりするのではないのかと思います。</p>
松壽委員	<p>私としては、寺町のあの辺りが、新しい家や、マンションが結構建ってきていて、もちろん個人の財産なのですが、空き地がどんどん駐車場とかに変わっていて、昔からあるものがなくなっていくのは、漠然としたような寂しさを感じてしまうのです。</p> <p>そういう昔からあるものを残して、駐車場などではなく、何か生かせるようなものがどンドンつながっていけば、すごくいいまち、寺町とかも生かせるのではないのかと感じました。</p>
小池委員	<p>北野委員、いかがでしょうか。</p>
北野委員	<p>私は、山之口商店街の開口神社の近くでギャラリーを開いてまして、20年ぐらいやっています。その前は、そこは主人の実家で、北野洋服店という学生服を扱うお店が、100年以上続いていた。</p> <p>山之口商店街が、昔は心齋橋と並び称されたとよく言われますけれども、その商店街が高齢化して本当にシャッターが多くなってきたのをこの20年でも随分見て、何とかならないかということで様々な取組をやってきています。</p> <p>行政からの助成金もいただいて、ファサードをきれいにしましたので商店街を歩いても奇麗でありあまり荒廃した感じはないと思います。それから、高齢者支援施設とか子育て支援施設などを、それこそとあった空き店舗をリノベーションをして、高齢者支援施設は本を並べて、皆さんがちょっと休憩に寄れるという場所になり、子育て施設は今、</p>

	<p>夕食を児童にという子ども食堂を商店街や自治会が中心になって始めていて、それも成功していますし、その場所が空いている時は絵画教室とか何かに、色々利用されています。</p> <p>山之ロストリートフェスティバルや、お祭りのときなど、本当にみんなが一生懸命頑張っていますが、高齢化は止められなくて、後継者問題はずっと大きなまま残っています。それをどうしていくかが、いまだに解決できない問題です。</p> <p>どうしていけばいいのかを常に考えながら、例えば、私のところはギャラリーなので、地域以外からも多くの人に来てくださるので、地域を越えて来てくださるような仕掛けがいいのではと考えています。</p> <p>周辺の人たちは、お祭りのときには大勢来てくださいます。イベントのときも、どこにこんなにたくさんおられたのだろうというぐらい来てくださるのですけれども、普段は閑散としています。そこを何とかしたいと、いつも考えています。</p> <p>それから、フィールドワークのときは、皆さんの熱い思いを、実行に移されていることをすばらしいと思って見ておりました。</p> <p>私は質疑応答の際には、どういうところに喜びを感じるかというのを中心にお伺いして、それはやはり人が喜んでくださるという言葉聞いたときに、同じだと思いました。</p> <p>点であって、線にも面にもなっていないかもしれないけれども、やはり一番ベースのところは点なので、その点がちょっとでも増えていくように何かできたらいいなと思っております。</p>
小池委員	<p>フィールドワークに行ったところ、どこでも、やはり堺の歴史の長さみたいなものを、すごく感じたのが印象的でした。</p> <p>そういう地域で見られている方にもご意見をお聞きしたいのですけれども、貴志委員、いかがでしょうか。</p>
貴志委員	<p>私の住む地域はほとんどが、もともとは工業地帯、家内工業ですか、零細企業が多いところです。長屋であったり戦後に建った単に古い文化アパートも混在しています。</p> <p>リノベーションは確かにすばらしいのですが、何をもって長屋というか、リノベーションすべきところと、完全にきれいにしてしまうところを見きわめないと、うちの近所でリノベーションですねと言っても、点のまましぼんでしまいそうです。それから広がっていく可能性はあるかもしれませんが、どちらかという近代化というか、そうい</p>

	<p>う波に飲まれている地域だと思いますので、場所を選んでやらないと。例えば山之口商店街だったら、もともと人が集まるというベースがあるので、やりやすいかと思います。</p> <p>ここから大和川へ行くところに、多分家が焼けてしまったので、戦後に急いで建てたところかと思うのですが、4、5軒が空き家になって、なぜか一軒一軒建て直されていくのです。そういうところは、リノベーションするほどの建物でもなかったのだらうと思うので、場所を選んでやっていけばいいのかなと思います。</p> <p>ただ、地上げをしてマンションが建つということでもないので、場所によってはリノベーションではなく、新しく建てかえ、きれいな長屋がたくさん建っているところは、イベントに行く人がここに住みたいと思えるところでイベントをやっていくのかなと思います。見ていると、若い方々もいらっしゃるので、リノベーションすべきところと建てかえるべきところを見極めて、どう発想していくかというところかと思います。</p> <p>古いものと新しいものが混じって、特に木造建築は経年によるわびさびみたいなものが出てくると、新築とで、若干難しい部分もありますが、それが生かされるような形で、面として広がっていくところを選んでやらないと、と思っています。</p> <p>でも、うまくしないと、本当に昔からあった堺のよさみたいなものが今、小さいところほどどんどん消えていっている気がします。消えていくのをとめることは多分できないと思うので、場所を区切って、一点注力ではないですけども、どこかからモデル事業のようにするのが早いのではないかと思います。右肩上がりでどんどんいく時代ではないだけに、今、そんなことを思ったりします。</p> <p>私のところは、ほとんどベッドタウンになってきています。</p>
川上副会長	<p>貴志委員。昔からあった堺のよさと言われましたけれども、もう少しそのところをお話頂けますか。</p>
貴志委員	<p>よさかどうかわかりませんが、小ぢんまりした個人経営のようなものが、競争しないで協力していくところがあります。同業ですが、ヨーロッパの中世のギルドみたいな感じで横に緩くつながって、大きくなっていったところがあったみたいで、この地域は何とか屋さんみたいなものがたくさんあって、一軒一軒は確かにライバル同士なのです。あそこに来ているお客さんが、うちに来てくれたらいいのにといい思</p>

	<p>いはあるはずなのに、全体としてひとつのグループみたいなものをつくって、他と交渉していくところがあったようなのですけれども、そういうあたりも全部無くなりつつある。</p> <p>それは、大きな外資や企業に、対抗できなくなっていることもあると思いますが、空き地をうまく利用出来なくて、だんだん普通に住むだけになってくると、人と人がドア一枚でつながらなくなってくる。昼間に街中に人がいないところが多くなってくる。皆、大都会に働きに行ってしまうと、帰ってきたらもう真っ暗で、誰も知らない人ばかりというところになる。昔は、どこでもお昼間に顔を突き合わせていたのではないかとは思いますが。</p> <p>まだ商店街だとか、人が集まる場所ではつながりは残っているはずだと思いますけれども、そういうところは今度は外から人が来るので、働きに来るだけの場所になりつつある。世の中全体がそうなのかもしれないのですけれども、そんな気がしています。</p>
小池委員	<p>今、いろいろな委員の意見を聞くと、堺区と大きく捉えていたものが、それぞれの顔、個性みたいなものが見えてきて、もしかしたら、ぼろぼろと言っている文化アパートも見るとお宝かもしれない、そんな想像もしました。</p>
矢本委員	<p>奥野委員、矢本委員、湯川委員、地域で日ごろ活動をされたり、お仕事でされていることなどを通して、今、色々出たご意見に対して何かいただければと思います。</p> <p>今、聞いていて一番出てくる言葉は、やはり、つながりという言葉かだと思います。その中で、私自身も、もともと商店街で10年前に会社を始めて、一番最初にまちづくりにかかわったのが地域の清掃活動でした。なぜかといったら、自分が子どもの頃は商店街はもっときれいだったと思ったからです。何で今は汚いのかと思ったときに、やはりコミュニティが崩壊してしまっている。隣近所がテナント化していて、誰がやっている店かわからない。単に雇われているだけだと商店街に愛着はなくて、自分の店の前もきれいにしない人もいます。昔だったら周りまで皆が気にして、きれいにしていた思いがあったのです。</p> <p>「地域力の強化」に具体的につながるかどうかはわかりませんが、まずは、コミュニティの再構築をしてつながりをつくっていかないと、なかなか強化できない。つながりをつくってだけで、単純にきれいになるのかと思われるかもしれませんが、8年続けて、本当につな</p>

	<p>がりが広がって行って、月に1回の掃除では、すぐにきれいになるはずもないのですが、以前よりもつながりの中で意識が共有されていき、きれいになったというのが実感できているのです。</p> <p>リノベーションにしてもそうで、空きスペースのリノベーションは、やはり箱でしかないと思うので、私が大事だと思うのは地域、周辺に住んでいる人たちが何を求めている、何があれば集い、つながれるか、その後の生活や日常をデザインしていかないとと思います。いいものやおしゃれなものをつくっても箱だけではつながらない。もちろん、空き家よりも人がいて埋まったほうがいいでしょうけれども、それでは有効的な空きスペースの活用とまでは、なかなか言いづらいと思います。</p> <p>地域にはそこにしかない人がいっぱいいると思うので、どんな形でそこをうまく利用していってもらいたいのかというのを、そこに入って、デザインするのが、僕は肝心ではないかと感じました。</p>
小池委員	<p>本当にハードのデザインとソフトのデザインと、一緒にしないとうまくいかないというのはあると思います。</p> <p>いかがでしょうか。</p>
湯川委員	<p>私自身が「地域力の強化」と言われると、連想するのは地域の担い手です。担い手といっても、もちろんそこで商売をする人がいてもいいと思いますけれども、少し福祉的な視点というか、それこそ高齢者をどう支えていくのかとか、今、自治会の方がすごく熱心にされています。この取組を今後、誰が担っていくのか。もちろんお金があれば、それはお金で解決できるのかもしれませんが、これからどんどんしんどくなっていく中で、地域力の強化と言われると、どうしても担い手というところに連想がいきます。</p> <p>今の取組で、空き家のリノベーションもすごくおしゃれで、おもしろくて、もちろんこういうものが好きな層というのがいて、その中で自分が商売をして色々なつながりはできていくとは思いますが、ずっと住み続けてもらって、さらに自分がやりたいことだけではなく、その地域の本当に困っているところを本当に担えるのか、そういうところの育て方はどうなのだろうという話をいつも聞きます。</p> <p>おしゃれできれいなものには、もちろん人は集まりますけれども、その先のストーリーで、どうなっていくのかというところが、課題だと思ったりしますが、小池委員はどんな感じですか。</p>

<p>小池委員</p>	<p>私に話せるのは大阪の長屋のことですが、賃貸住宅として再生して、そういうものに惹かれた若い人たちが住まいとして入ってきています。今回の大阪北部地震でも、大丈夫ですかと連絡したら、近隣の高齢者の安否確認をして、大丈夫でしたよとおっしゃってくださいました。やはり壁で接しているので、無関係のお隣さんというよりは、同じひとつの建物のお隣さんと皆さんが思ってもらって、そういうところが長屋はすごくおもしろいと思っています。</p> <p>あと、オープンナガヤというイベントは、参加の願いは全くしてなくて、実行委員会をするので開きたい人は来てくださいということで、来た人たちとやっています。こういう人たちも、スピニングミルの小野さんもそうだと思いますけれども、本業のお仕事があり、その傍らで自分の仕事にもプラスになるかもしれないということも含めながら、まちがよくなることを考えてる人が多いです。住まいとして利用する人だけではなくて、そこで店舗をしながら年に1回開いて、地域の人が来るのがいいという、自分のお仕事プラスアルファでまちづくりをするような、おもしろい人が多いので、そういう人たちを私たちは「長屋人」と呼んでいます。それがおもしろいので、ついつい、こういうイベントを継続しているというところがあります。</p> <p>そんな方々はマンションに住むより、色々できそうな所に住んでくれるのかと思ったりします。まだそのあたりは解明できていませんが、古い建物の懐の深さが、おもしろい担い手を呼び込むのではないかと、少し思います。</p> <p>おしゃれになったからではなくて、そうではない長屋でも色々なことは起こっていると思いますけれども、わかりやすく外にアピールできるのも、ひとつデザインの力かなとは思っています。</p> <p>奥野委員、いかがでしょうか。</p>
<p>奥野委員</p>	<p>私は、堺市北区のマンションに住んでいて、自営でひとりで仕事をしたいくてライターという仕事をやっているのですが、色々な人と関わるスピニングミルの代表の方とか、リノベ学校とか、本当に行動力がすごいなと思ってしまって、あまりにも自分とは違い過ぎるというか、あまり自分の生活とは関係無いと感じてしまう面もあるのです。</p> <p>そのような私でも、今、子育て中だから広くて安い家があったら引っ越してもいいとか、実利の面があったら嬉しいと思います。そういうメリットが長屋で実現できるのなら住むことを考えてみたいと、少し思いました。</p>

<p>川上副会長</p>	<p>若い夫婦などが子どもを2人ぐらい欲しいし、経済的メリットも考えて長屋に住んでみようとかになってくれたら、多少なりとも人は増えるだろうし、やはり子どもがいると横のつながりができたりするので、活性化にもなって、私みたいな考えであってもそういった場所に住むことで、人とつながろうと思ったりするのではないかと、素朴に思いました。</p> <p>おもしろかったです。ありがとうございました。</p> <p>「地域力の強化」ということで、10人の方、自分も入れていろいろな発言をいただきました。これを3本柱ぐらいに整理しようと思っていましたけれども、この短時間ではちょっとできないですね、これは後ほどやるということにしまして、次に行きたいと思います。</p> <p>緩くつながる地区、それが力になる。いい言葉を聞きました。しなやかな気風というものが元々の堺にはあったと思います。それに近づいたような気がしました。心の問題、ハードの問題、色々な部分から色々な意見を頂いたので、まとめるのは後にします。</p> <p>(3) その他</p>
<p>川上副会長</p>	<p>次、案件の3です。事務局から、今後のスケジュールについてご説明をお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局 (川瀬主査)</p>	<p>では、今後のスケジュールです。区民評議会関連事業で、「堺サンセットガーデン」、「SOCIAL GOOD MARKET」、「子ども観光ガイド」です。時系列にはまず7月8日(日)に「SOCIAL GOOD MARKET」の開催を予定しております。大道筋沿いにある、もとは泉本機鋼という会社だった建物の利活用です。堺区版のリノベーション、社会実験です。この日1日マーケットやコンサートなど数々のイベントを現地にて実施します。</p> <p>次に、7月18日の「子ども観光ガイド」ですが、こちらは本日進行して頂いております川上副会長に深く関わって頂いておりますので、この後、ご紹介いただきます。</p> <p>最後に「堺サンセットガーデン」は、ザビエル公園で昨年も同じ時期に行いました。8月の夏休み最後の週末に、イベントを行いますので、ぜひ、こちらのほうもご確認頂ければと思います。</p> <p>では、川上副会長より「子ども観光ガイド」をご紹介願います。</p>

川上副会長	<p>シビックプライドの醸成は、次代を担う子どもたちからというテーマの実験に、大仙小学校が参加してくれるということになり、先日、6年生全員に、まず仁徳天皇陵古墳の正面で私たちがガイドをしているのを見てもらいました。私がガイドをするのだったら、こんなパターンで、こんなやり方でやりますということを見つけて、それから学校に戻って、ガイドをするときの心得、こんなことをしたらダメだとか、案内する内容ではなくて、まず、こうしたらいいですという対応マニュアルそのものを、知ってもらいました。</p> <p>古墳の基本的な寸法、時代などは、さすがに世界文化遺産候補になって、自分の家も学校もその地域にあるということで、生徒たちは知っていました。</p> <p>次に、古墳というものは何なのか。なかなか大人でも知らないけれども、古墳づくりから中世の堺の発展へ、明治以降の堺の産業も全て古墳づくりからつながっているということをお客様にご案内できたら大成功ということで、そのあたりまでは授業で話してきました。</p> <p>今日ぐらいには、小学生が自分たちでつくったマニュアルができています。それを今月27日に、私たちの前や、学校でリハーサルします。その修正をかけて、さらに練習し、7月18日に初めて子どもたちだけでお客様を案内します。質問をされたりしたら答えられないこともあると思うので、我々観光ボランティアがつきます。案内してもらって、自分の近くにこんなすごいものがあるというところから、シビックプライドの醸成、つまり、自分たちのまち、自分が生まれたまちに誇りを持ってもらうための一環として実施します。</p> <p>おそらく新聞社も沢山訪れます。こういう企画はなかなかないと思います。それが、この「子ども観光ガイド」です。</p> <p>今回は6年生、秋には3年生でやります。この3と6というのは、どこの小学校でもひとつの基本で、4年生、5年生よりも、3年生にしたほうが浸透します。6年生が完成のときということで、やろうと思っております。</p>
川上副会長	<p>4. 第1回堺市堺区区民評議会 閉会</p> <p>今の件につきまして、委員の皆さんから何か、質問はございますか。質問がなければ、以上をもちまして、平成30年度第2回の区民評議会を終了します。</p>